

総合評価

まずは岡田光弘センター長のこれまでのご尽力を心より労りたいと思います。かつての21世紀COE, それに続くグローバルCOEというプログラムは大学における大型研究拠点形成のための資金であり、その後の拠点維持は大学法人に任されていました。残念なことに慶応義塾はこの仕組みについての十分な理解がなく、教員は独自にセンター維持を行いました。その一つは医学部・岡野さんによる「人間知性研究センター」であり、もう一つが岡田さんによるこの「論理と感性のグローバル研究センター」でありました。

今回の発表を見ると、センター所属の研究者が慶応義塾の学術のフロントを形成していることが実感されます。おそらく、今後もこのセンターは義塾の学術研究の前衛であり続けると思います。しかしながら、いくつか、気になあることもあります。一つは個別研究に分散していて、専攻を超えた共同研究がないこと。2つ目は、学部を超えた共同研究もないこと。さらに3番目はグローバルな共同研究がないことです。21世紀COE, グローバルCOEを通じて多くの国外研究機関と協定を結びましたが、それらの仕組みが生かされていないと思います。

次期センター長は安藤さんということですが、ぜひ、総合研究大学である本塾の特性を生かして個別研究ばかりではなく、学内、国内、国外との連携研究を推進していただきたいと思います。大きな研究資金の獲得も重要ですが、センター所属の教員が資金を拠出すれば、世界の前衛研究者を集めた国際会議をセンター主催で毎年開催することも可能だと思います。全員が一丸となって新センター長を支えて、グローバルな研究センターを形成されることを切に望むものです。